

令和6年度の主な利用数値

□登録団体	：333団体 (新規登録16件、解散12件、前年度比+4団体)
□入館者数	：45,577名 (月平均3798名、前年度比+2207名)
□相談件数	：463件 (前年度比+27件)
□問い合わせ件数	：204件 (前年度比-54件)
□会議室利用数	：466件 (前年度比+100件)
□持ち込みイベント日数	：192日 (前年度比+9日、利用団体+4、イベント数+7)
□器材貸出し件数	：375件 (前年度比+63件)
□ホームページアクセス数	：97,292件 (前年度比+34,630件)
□登録団体記事数	：1,075件 (前年度比+99件)
□寄付・寄贈	：56件 (前年度比+9件)



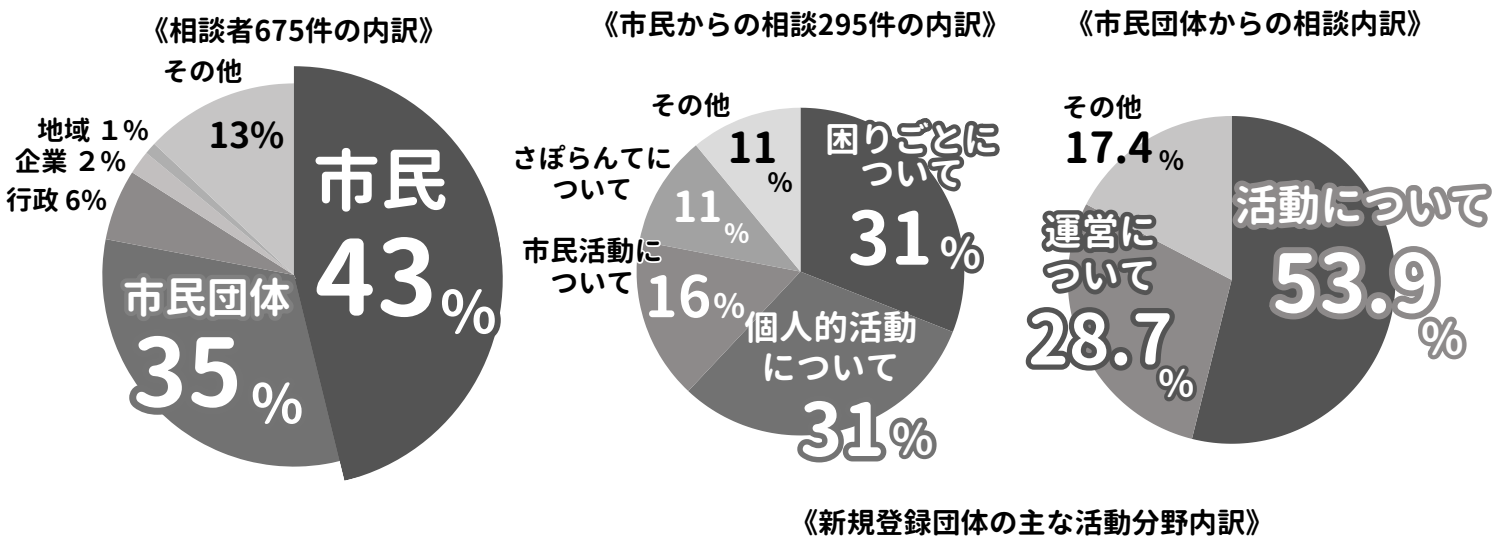
コロナ禍が終わり、団体持ち込みイベントが増え、かつての賑わいが戻ってきています。

相談

さぼらんての基本支援は相談です。令和6年度は全体で675件の相談があり、そのうちの295件は市民から寄せられています。前年度に比べ市民からの相談件数が3%増加しました。また、困りごとの相談やさぼらんてに登録している団体についての問い合わせも増えています。

市民活動の認知に伴い個人で団体を立ち上げたいという相談が大幅に急増し、コロナが収束したことにより、高齢者の方がボランティア活動に参加したいという問合せが増加。「犬猫についての相談」は減少傾向にあり、その他の困りごとが増えています。

市民団体からの相談は、報告書や事業計画に関する相談が多く、運営面では資金調達や組織の見直し、活動面ではパソコンにまつわる事務作業に関する相談が多く寄せられました。情報発信方法の変化により、団体活動面においても、発信力の強化に取り組んでいることがうかがえます。



令和6年度さぼらんてに新しく登録された16団体の主な活動分野は7種類に分類され、健康保持・増進を目的としたスポーツ活動団体の登録が最も多く、次いで保健医療・福祉の増進の分野となりました。

令和6年度(2024年度)事業報告ダイジェスト版 (発行：令和7年6月1日)

山口市市民活動支援センターさぼらんて

〒753-0047 山口市道場門前2-3-6 どうもんビル1階

■TEL：083-901-1166 ■FAX：083-901-1165 ■MAIL：info@saporant.jp

ホームページは
こちらから▶



山口市市民活動支援センターさぼらんて 令和6年度(2024年度) 事業報告 ダイジェスト版

SDGs推進・関連事業「SDGs17の目標クイズ&SDGsアクションシールアンケート」

■山口市民のSDGs意識調査

朝日新聞社が2024年に実施した第10回SDGs認知度調査によると、「SDGsという言葉聞いたことがある」と答えた人が88.7%に達し、SDGsの言葉に対する認知はかなり浸透したといえます。

さぼらんてでは、SDGsの意味や関心・行動についてどのぐらいの人たちが理解しているかの把握と啓発活動かねて、「きららでキラリ！県民つながるフェスタ」などのイベントにおいて、市民の方々を対象に「SDGs17の目標クイズ&SDGsアクションシールアンケート」を実施しました。参加者にはSDGs関連デザインの啓発缶バッジを贈呈。多くの市民の方にご協力いただきました。

SDGsクイズで反響が大きかった問題が「日本でその日の食事に困っている子どもの数」として「7人に1人」という回答です。山口県でも同様の数字であることに驚かれる方が多く、周りに貧困と気付かれにくい「隠れ貧困」状態の家庭が県内でも数多く存在しているという社会問題も浮き彫りになりました。

シールアンケートでは、日常生活の節約や健康、食事に関連する取り組みが結果として、環境に優しい行動につながるということを市民の方々と共有できました。

■大学×団体×地域協働

「501再発見！秋の樫野川ウォーク」レポート！

山口芸術短期大学と山口市が包括連携に関する協定を結んでいることから、市民活動と連携して課題解決型学習（PBL）の一環として、樫野川再発見ウォークの会・きらめき財団主催のイベント「第1回501再発見！樫野川ウォーク」の実行委員として地域づくりへの参画をテーマに、市民活動を実践の場として提供するとともに、団体マッチングを行いました。実行委員として、山口芸術短期大学デザイン表現学科の2年生14名が参加。ステージやスタンプラリーの企画を学生が主体となって考え、イベントを盛り上げてくれました。



高校生・大学生リーダー育成事業「第4期トップランナープロジェクト」

■大学×団体×地域協働

市内在住、通学の高校生を対象に、高校生の自信と責任を育て、より広い視野を持つ次世代のリーダーの育成を目的とした課題解決型学習（PBL）を実施しました。

今年度は5つのテーマに分かれ、チームでPBLを実施。チームは3名の高校生と2～3名の大学生メンターで編成され、高校生をメンターとして大学生が目標達成に向けて導きます。個々の力を引き出す能力の育成に努めつつ、協力団体の指導のもと半年かけ学校や学年を超えた仲間たちの対話を通して、課題解決に取り組みました。11月には全5チームによる成果報告会が開催されました。さらに、5チーム中1チームが山口県の探究活動報告会に参加し、出場に向けて追加で個別指導を行いました。

【協力団体】

- ①NPO法人フードバンク山口（食品ロスと生活困窮者への食支援活動）
- ②一般社団法人 Happy Education（不登校児の居場所・学び・体験活動）
- ③かぎしっぽの会（地域猫の殺処分ゼロ活動）
- ④青年海外協力隊 OB会（外国ルーツの子どもの日本語教室）
- ⑤小郡みんな食堂実行委員会（つながりを目的とした地域食堂）



令和6年度 山口市ボランティア連絡協議会交流会でのさぼらんてブースの様子



反響が大きかった17問のSDGsクイズの一例



『ええやん新聞』の発行

『ええやん新聞』は子育て世代向けの市民活動情報紙で、年に2回、各号30,000部を発行し、市内の小中学校や地域の回覧板を中心に配布しています。
令和6年度は「あたたかさ溢れる山口市」をメインテーマに設定し、30号では山口市中心部を拠点に、山口市を支える人や団体、31号では主に山口市の中間地域を拠点に活動している山口の支え人、地域おこし協力隊について発信しました。



スマホで読もう！

『ええやん新聞』はオンラインでもご覧いただけます！▶



もっと楽しむなら

Instagramでは、取材の裏話や載せきれなかった情報を大公開！▶



■ホームページ・SNSを活用した情報発信

各SNSの強みやユーザー層に合わせて、市民活動の普及啓発を目的とした情報発信を行っています。また、令和6年度からメールマガジンも発行を開始！月1回、毎月15日に登録団体・地域の皆さまにお送りしています。



ホームページ

まずはこちらをご覧ください。



Instagram

ボランティアを探すなら！



LINE公式

館内イベント情報はこちらから！



Facebook

旬な出来事をいち早くゲット！



■さぼらんてスタッフによる団体スキルアップ講座

- ・はじめてのCanvaサロン（5名）
- ・Canvaのテンプレートで伝わるチラシを作ろう①（5名）
- ・Canvaのテンプレートで伝わるチラシを作ろう②（1名）
- ・活動や魅力を伝えるための情報発信力UP講座「Canvaで報告書を作ろう」（4名）



活動や魅力を伝えるための情報発信力UP講座「Canvaで報告書を作ろう」の様子

■外部講師による団体スキルアップ講座

- ・3時間で完成！WixのAI機能で楽々ホームページ作成講座（9名）
- 講師にサイト制作やWeb集客関連のコンサルティングをされている「オフィスこと」代表フクイユウさんを招き、公式サイト的重要性と無料で活用できるホームページの開設作業を行いました。



「クラウドファンディング基本と応用」の様子

- ・クラウドファンディング基本と応用（23名）
- 講師に日本ファンドレイジング協会中国チャプターより、柿沼瑞穂さん、船崎美智子さんを招き、クラウドファンディングの基礎知識や経験談を聞き、達成させる難しさを学びました。

円卓会議とは、行政や団体など多様な主体が社会課題の解決に向けて話し合う会議のことです。令和6年度は山口市のひとり親家庭の支援をテーマに、行政や団体など機関同士のネットワーク構築を含めた話し合いを行いました。

■ひとり親家庭の支援に向けての円卓会議（全3回）

ひとり親家庭は経済的困窮や子育て負担が大きく、特にコロナ禍以降は支援がなければ、生活が成り立ちにくい状況に置かれています。そこで、ひとり親家庭支援のネットワークの強化と社会的な孤立の防止などを目的とした当事者、および関係機関と具体的な支援策について意見交換をしました。

1回目のテーマは『ひとり親家庭の困りごと～幼少期編～』
子どもが小さい頃に困ったことや、ひとり親家庭向けに、こういうサービスがあると助かる！という意見交換など、既存のサービスの共有を行いました。

2回目は『ひとり親家庭の困りごと～学齢期編～』
主に小学生～思春期の子どもを持つひとり親家庭の課題を、2グループに分かれどんな支援があるか、それが届いていない、使われていないのはなぜか？をテーマに話し合いました。

最終回は「山口市でできそうなひとり親家庭支援事業案」を考えるグループワークを開催。今まで話し合ってきた「ひとり親家庭に必要な支援のかたち」を具体化していきました。



円卓会議の最初に参加者同士のつながりを深めるために行ったアイスブレイク「他己紹介」の様子

支え人。

ービジネスと社会貢献の両立ー

さぼらんて2024年度円卓会議かわら版にひとり親家庭支援事業報告を掲載しています！
こちらのかかわ版もチェック！

■企業×NPOのつながりプロジェクト

企業とNPO法人のコラボレーションによる寄付つき商品を創造し、企業とのパートナーシップの推進をはかり、地域社会への関心を広げる「支え人。」プロジェクト。
プロジェクト開始から11年が経ち、令和6年度は4社が2NPO法人に寄付をしてくださいました。



認定NPO法人こどもステーション山口

（株）メルシー

「おかげさまプロジェクト」



リンドヴルム

「ぬくもりプロジェクト」



POLAsweet

「とっておきの時間プロジェクト」



NPO法人あっと

（株）モリイケ

「楽しい子育て応援文具」



<NPO法人2法人に対して4社からの合計>
令和6年度
寄付金総額 **¥46,555**

<これまで11年間の寄付金総額>
¥1,802,224



「支え人。」とは？

社会を支えるNPOを企業と消費者が支えるプロジェクト。
寄付つき商品を購入することで消費者もNPOを支え、参加する企業も、NPOも、消費者も、互いの「支え人」であることから、この名がつけられました。